

第7回上下流交流—ハツ場ダム編②

ハツ場ダム・品木ダムを見に行こう

2019.8.24-25



酸性水の中和でできる“中和生成物”を沈殿・貯留する品木ダム



ハツ場ダム試験湛水直前の水没地域

本事業は、水の週間実行委員会R1年度「水の日」「水の週間」上下流交流事業に一部ご助成いただきました。

品木ダム水質管理所 (群馬県草津町)

硫黄の匂いが立ち込める草津温泉「湯路広場」に続く「湯畑」に直行。



熱い足湯に浸かり気分爽快。湯路広場から地蔵通を東に進むと「大滝乃湯」。その東隣に品木ダム水質管理所と中和工場。中和工場で作る石灰混合水を草津温泉からの湯川に投入している



pHに関する基礎知識から湯川のpH測定、石灰石を草津温泉に浸けてクラフト作成等々、楽しく学べる諸施設を併設



日本の河川はだいたいpH7。湯川はpH2。流水に魚影がない



揚水した湯川の水に石灰石粉を混ぜ合わせる「草津中和工場」



石灰石粉を混ぜた石灰混合水を湯川に戻す



そこからの湯川はさらに中和が進み、品木ダムではpH7になる

品木ダム (群馬県中条町・旧六合村)



品木ダムには湯川のほか、万座方面からも同様に強酸性水を「香草中和工場」で中和した大沢川・谷沢川も流入する。酸性水を中和すると中和生成物ができる。それを沈殿・貯留するダムが品木ダム



不動大橋から（群馬県長野原町）、吾妻渓谷（同東吾妻町）



品木ダムから国道292号を下り、品木ダムからの白砂川と吾妻川合流地点近くにJR吾妻線長野原草津口駅。その手前で県道376号を進み、吾妻川に架かる「不動大橋」からハツ場ダムを遠望



十二沢パーキングから吾妻渓谷に下り、鹿飛橋を渡り左岸に立つ。谷底深く降りると、吾妻川の上下流方向が不明に

利根川の河川基準地点・八斗島がベースなら利根川本流筋はライト、吾妻川筋はセンター、神流川筋はレフト。利根川洪水には各筋の調節が必要なので、吾妻川筋のハツ場ダムも早くから計画された。しかし吾妻川の支流は強酸性。ハツ場ダム建設が動き出すのは、支流に中和施設や品木ダムが建設されてから。品木ダム見学後、間もなく完成のハツ場ダムに向かった。

やんば見放台から（群馬県長野原町）



ハツ場ダム左岸側にある「やんば見放台」からは、ダム堤体上流側が目前。天端中央に「非常用洪水吐」。その下の3つの四角い穴は、下2つが「常用洪水吐」。上が「水位維持用放流設備」。目を転じると右岸側高台に代替地が連なる



相沢暁一写真集『ふるさと川原湯—ハツ場ダム予定地の暮らし1993~2004年』地図を参考に作図

25日(日)

朝の勉強会



ハッ場ダム建設の経緯と必要性、水資源開発の原理、埼玉県が完成を待つわけ等々、お勉強



勉強会に玉木屋さんから茶わん蒸の差し入れ、感謝です。座学が終われば、ダム右岸側からの見学スタート！！

ハッ場大橋から (群馬県長野原町)



ハッ場大橋上流側。吾妻川右岸側の高台に新温泉街



ハッ場大橋上流側。吾妻川に架かる旧JR吾妻線鉄橋、国道145号の橋も9月からの試験湛水で水没する



ハッ場大橋下流側。正面にハッ場ダム。こども湖水に



ハッ場ダムの堤高116m、総貯水容量1億750万t。洪水調節容量6500万t。大雨時にはこの大きな水瓶が効果を発揮する



現「温泉神社」



江戸初期以来400年続く「湯かけ祭り」。毎年1月20日、温泉神社で行われてきた

相沢暁一写真集『ふるさと川原湯—ハッ場ダム予定地の暮らし1993~2004年』より



丸岩(右奥の小山)と湖水、新たな景観創出は楽しみでもある

高台に移転して400年の祭りを継承する「温泉神社」にお参りし、帰路に就きました。
来夏の上下流交流は、下久保ダムを基点に埼玉県北の水みちを迎える日帰りバス旅行を予定しています。